

◆◆◆◆◆ 2020年7月11日(土) 午前の部 ◆◆◆◆◆

≪講演1≫

「ウェクスラー知能検査の理解と活用～WISC-IVから WISC-Vへ～」

【日時】2020年7月11日(土) 10:30～12:00 (90分) 【会場】かでのホール  
【講師】大六一志 (NPO 法人 LD・Dyslexia センター)

【講演要旨】

児童生徒用のウェクスラー知能検査 WISC は、米国では 2014 年より WISC-V が使用されており、日本版も刊行の準備が最終段階まで進んでいる。そこで刊行に先立ち、本講演では WISC-V の特徴と今後の活用の方向性についてお話しする。WISC-III から現行 WISC-IV への改訂は、WISC-III の枠組みをほぼ継承する小さな改訂であったが、それと比べると IV から V への改訂は劇的な変化である。すなわち、指標得点が5つになり、CHC 理論の第Ⅱ層に準拠した。また、従来の指標得点の他に、GAI, CPI, 非言語など、5つの補助指標得点が用意された。さらに、オプションの指標として、Naming の流暢性 (RAN) や連合記憶など、長期記憶と検索 (Glr) の領域が測定できるようになり、学習障害の原因メカニズムを調べることができるようになった。これらにより、活用の方向性も変化することが予想される。

◆◆◆◆◆ 2020年7月11日(土) 午前の部 ◆◆◆◆◆

≪講演2≫

「授業 UD とどの子ども輝かせる学級づくり」

【日時】2020年7月11日(土) 10:30～12:00 (90分) 【会場】大会議室  
【講師】川上 康則 (東京都立矢口特別支援学校)

【講演要旨】

学級経営と個別的な支援は「両輪の関係」と言われます。しかし、その輪の大きさは同じではありません。通常の学級においては、学級経営の比率のほうが圧倒的に大きい。学級が崩れている状態では、合理的配慮も成り立ちません。そこで、どの子ども安心できる学級・どの子ども輝かせる学級をどう作っていくか、具体的に整理していきたいと思います。

ただ、教育課程の中に「学級づくり」として設定されている時間はありません。したがって日々の授業を通して学級経営をし、そこで培われた共感的な関係性を通して、さらに授業を充実させるという往還を繰り返しながら、クラスの雰囲気醸成させていくこととなります。つまり、学級経営の充実のためには、授業を見直す視点を欠いてはならないと言えます。特に学習につまずきのある子どもの多くは「授業のおもしろさ」にとっても敏感です。少しでも参加感や達成感が乏しくなると、気持ちがあつという間に授業から離れていきます。授業のユニバーサルデザイン (授業 UD) は、授業のあり方を見直すよいきっかけになると思います。◆◆◆◆◆

◆◆◆◆◆ 2020年7月11日(土) 午前の部 ◆◆◆◆◆

≪講演3≫

「社会資源の少ない地域における特別支援教育の推進と S. E. N. S の役割」

【日時】2020年7月11日(土) 10:30~12:00 (90分) 【会場】520 研修室

【講師】二宮 信一 (北海道教育大学教育学部釧路校)

【講演要旨】

筆者の居住する北海道東部地域は、多くがへき地であり社会資源が乏しく、地方の財政が底をつく中で、将来に渡って特別支援教育に関わる専門職が常駐する可能性はない。しかし、全国的に見ても、特別支援教育に関わる社会資源が満たされている地域はないのではないかとと思われる。例えば、都市部においても専門機関活用の需要と供給のバランスは崩れたままで、受診に数か月を要するということが常態となっている。それゆえ、専門機関に過度に依存しないシステムの構築という発想が必要であると考えるのであるが、そのことは、S. E. N. S の役割の重要性が示されることでもあると思われる。

本講演は、地域社会の状況を踏まえて S. E. N. S の専門性や役割について再考する。



◆◆◆◆◆ 2020年7月11日(土) 午前の部 ◆◆◆◆◆

≪講演4≫

「算数障害の理解と指導」

【日時】2020年7月11日(土) 10:30~12:00 (90分) 【会場】820 研修室

【講師】熊谷 恵子 (筑波大学人間系)

【講演要旨】

算数障害は歴史的な観点から、①数処理、②数概念、③計算、④数的推論(文章題)に分けられる。①数処理とは、数詞・数字・具体物の三項の対応関係の成立、また、②数概念とは、序数性・基数性の成立、さらに、③計算とは、暗算と筆算の問題、そして、④数的推論(操作的には文章題を解くところ)では、統合過程(文章から視覚的イメージ化の段階)とプランニング過程(数字の関係を演算子を用いて立式する段階)の問題があるのかを考える。

これらの基盤となる能力には、WISC-IV等で測定できる言語理解、知覚推理、ワーキングメモリー、処理速度という感覚様式に関連した4種類の指標に加え、ルリアの知能理論に基づく、継次(順序性、系列性を軸にした処理の能力)、同時(複数の刺激を同時的、統合的な処理の能力)という2つの処理能力の観点にたつ必要もある。算数障害の4つの観点と能力との関連性、および指導のおおまかな方法を説明する。

